

初めのお話をします。

先日、何十年ぶりで映画館に行きました。たまたま読んでいた小説が映画化されたので、見てみたいと思ったからであります。

久しぶりの映画館は、随分変わっていました。私が映画をよく見ていた昭和の時代は、大型の映画館がたくさんありました。そこでは、二本の映画をセットにした二本立ての上映というのが行われていました。今は、一つの映画館の中に小さな部屋が幾つもあります。そうすることで、何本もの映画を上映することができるようになっております。

私が入った部屋の客席の数は百ぐらいで、スクリーンも小さく感じました。これはこれで現代的でよいとは思いますが、映写機の音がする昔の映画館を懐かしく感じました。

今は若者の映画離れが進んでいると言われております。動画配信サービスやスマートフォンの普及によりまして、家で気軽に映像を楽しめるようになったからであります。しかし、今回私が行った映画館には、若い人たちもたくさん来ていました。いろいろなジャンルの映画が上映

されていますので、様々な世代が集まる場所にもなっているようであります。

今回の経験を通して、新しい発見がいろいろありました。同時に、改めて映画の魅力を感じることができました。例えば、大きなスクリーンや音で感じる迫力であります。暗い独特の空間にいるからこそ、物語に入り込み、感動を共有することができるのも映画ならではの魅力であります。

時代や世代は変わっても、映画は私たちの心を豊かにしてくれる大切な娯楽だと思います。

次に、辞書についてお話をします。

辞書は、言葉の意味や使い方を調べるための大切な道具であります。誰もが仕事や勉強で使っているのではないかと思います。

辞書の歴史はとても古く、古代の中国やギリシャには言葉に関する本があったそうであります。日本では、平安時代に作られたものが最も古い辞書だというふうに言われています。その後、時代とともに改良され、今のようになりやすい形の辞書になっていきました。

辞書には幾つかの種類があります。よく知ら

れているのは、言葉の意味を調べる国語辞典や、日本語の書き表し方を調べる表記辞典などです。速記の仕事においては、この二つの辞書は欠かすことができません。そのほかには、医学などの特定の分野に特化した専門辞書も必要になることがあります。

ところで、辞書には紙の辞書と電子辞書があります。紙の辞書は、ページをめくって言葉を探します。また、手で書き込むことができます。そのため、言葉への理解を深め、記憶を定着させる上で利点があるというふうに言われます。

一方、電子辞書は、素早く調べることができます。軽くて持ち運びやすいとか、一台でたくさん辞書をまとめて使えるという利点もあります。最近ではパソコンなどに組み込まれているものもありますので、さらに便利になりました。

このように、紙の辞書と電子辞書にはそれぞれのががあります。どちらを使うにしまして、大切なのは言葉に関する知識を深め、自らの能力を伸ばすことだと思います。辞書はそのための心強い味方なのであります。(了)